



9月号 令和4年8月31日発行

窪田小だより

横浜市都筑区窪田南町694番地 [Tel.911-0149]



コロナ禍だからこそ大切にしたい学習活動 ～「仮説・問い」のある授業～

校長 伊藤 智樹

昨年度の夏とは違い経済活動や行動等への制限はありませんでしたが、新型コロナウイルス第7波が全国的な猛威を振るっていた夏休みでした。新型コロナ感染症への対応ですが、市のガイドラインにそった感染対策を行いながら引き続き教育活動を実施したいと考えます。三密になることを避けて実施できる「子どもの成長に必要な活動」は、積極的に実施したいとさえ思っています。今後の感染状況やガイドライン等の変更によっては行事の見直し・日程変更などが生じる可能性があります。その都度メール配信や学校HP等でお知らせしていきたいと思っております。終息への見通しがもてない状況ではありますが、子どもたちの健康・安全を第一に考え学校として対応して参ります。

「全国学力テスト、中学理科の正答率が5割切る・・コロナで観察実験の授業減」

これは7月下旬にマスコミで報道された記事の見出しです。記事には学校へのアンケート結果から感染対策のため理科で実験・観察をする授業回数が大幅に減少したこと、回数が少ない生徒の方が正答率は若干低い「有意な差ではない」という文科省のコメントも掲載されていました。



また国語は、小中とも考えを書く問題に、算数・数学については「データ活用」で苦手な傾向が見られたとのことでした。この記事を見て私が考えたことは「**いかに観察実験の質を高めるのか**」です。理科に限らず各教科の年間授業時間には限りがあります。漠然と観察実験をするのではなく、**「仮説・問いを立てた上で観察実験を行うとともに、結果を検証し、自分の言葉でまとめること。」**が重要だと考えます。感染対策を取りながらになりますが、このプロセスをいかに学習活動に私たち教師が盛り込むのがポイントであると考えます。いわゆる問題解決的な学習とも言われるものです。



今年の大河ドラマは平安末期～鎌倉初期を扱っていますが、私の小中学校時代の社会科では年号と出来事をセットにした語呂合わせで「いいくに（1192年）つくろう鎌倉幕府」と暗記をしました。1192年は源頼朝が征夷大将軍に任じられた年です。近年の歴史研究では鎌倉幕府成立年については様々な考え方があります。

主体的な学びには「解」だけではなくその解を導き出すための「問い」が重要となります。その解も一つのみとは限りません。「納得解」ということもあります。「どうして源頼朝は京都ではなく鎌倉に幕府を開いたのか」このように問いを立てて調べ、歴史的事実の意味を考える学習の根底にあるものは上記の理科学習と同様なものです。

全ての学習時間をこのような学習プロセスで行うことが理想ですが、授業時間には限りがあります。「この単元や教科では重点的に問題解決的な学習に取り組み、身に付けた考え方・学び方を他の場面で活用していこう」というような軽重をつけた指導が必要になります。

9月～12月の時期は教育活動においても実りの秋と言われます。10月には運動会もあります。「問い」をもとにした問題解決に向けた学習の見通しを子どもがもちながら学習活動が展開できるように私たち教師は授業改善に努めていきたいと思っております。子ども主体の学びであっても、授業をデザインするのは教師です。学年末の子ども姿をイメージにもち授業をデザインすることが重要と考えます。

